

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201435		
法人名	株式会社ケアーサービス希慈		
事業所名	グループホーム希慈	ユニット名	
所在地	石巻市新成3丁目9-17		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の大半を過ごす共有リビングは吹き抜けとなっており事業所全体が明るく居心地の良い空間に、利用者様はソファなどに座りながら、安心して居眠りをしたり、テレビを見たりと常に憩いの場になっている。また、コロナ禍で面会がままならぬ中、家族様と利用者様の絆を大切に毎月、月初めには利用者様の日常生活の様子や、行事などの写真と共に、担当職員の手書きの、お手紙を添えて郵送し利用者様の様子を家族様と共有している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 14 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石巻市渡波地区の住宅街が並ぶ一角に、1ユニットの「グループホーム希慈」がある。新型コロナウイルス感染症の影響で、各種行事の中止や外出する機会が少ない中、ホームの周辺を散策しながら、地域の方々や挨拶を交わしたり、桜やチューリップの花を見物している。ホールでは、白玉団子を食べ甘酒を飲んでの正月を過ごしたり、職員が鬼の面をかぶり入居者が花紙で作った豆を撒いての節分、女性の方々がマニキュアを塗り化粧しての雛祭り、流しソーメンを食べての七夕祭り、職員がサンタ姿になり手作りケーキを配布してのクリスマス会等、職員や入居者共に笑顔で楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム希慈** )「ユニット名 \_\_\_\_\_」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念及び職員の個々の目標を一人一人挙げ、ケース記録に添付し、ケース記録を開いたときに常に確認、振り返りが出来るようにしている	ホーム理念を全体会議で振り返り、継続している。今年「は初心に帰り、耳を傾ける」「一人ひとり穏やかに生活できるように環境を整える」等個人目標を掲げ、入居者が楽しく生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域交流は減ってしまったが、ほとんどの利用者様は地域の同じ薬局を利用しており薬を配達してもらっている。また、管轄の消防署など近所に何か通報があると施設を尋ねてきてくれたりしている	町内会に加入している。近所の方が子供を連れて回覧板等を届けてくれたり、犬の散歩時に寄って立ち寄り野菜を持って来てくれる。ボランティアの方が、一人ひとりに手作りのクリスマスプレゼントを郵送してきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんの力をお借りして書面での運営推進会議で施設の報告をし機会があれば民生委員さんより発信して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も書面での運営推進会議の開催となったが、入居状況、介護度、行事の様子、勉強会の報告を行い、意見、質問等を返信して頂きサービスの向上に活かしている	地域包括職員や民生委員、家族等の各メンバーに資料を送付し2か月毎に書面開催している。メンバーより、コロナ禍での職員に対する労いやコロナ感染に関する意見が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新の代行や、生活保護関係の諸手続きに窓口に行っている。また、心配事、不明な点は連絡を取りアドバイス等を貰っている	市・地域包括と生活保護受給者の受け入れや空き状況について情報交換している。市より、一人ひとりの入居の満足度調査アンケートがあり対応した。市の紹介で在宅医療の医師よりホームでワクチン接種を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	落ち着かれずに施設内を歩かれる利用者様に対し、制止はせずに安全面を配慮した上で見守りや行動を共にし身体拘束に繋がらないケアをしている。また夜間以外、玄関は常にオープンの状態である	3か月毎の委員会で、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為11項目とやむを得ず身体拘束を行う際の三つの要件について、復習し確認している。帰宅願望の方は、寄り添って話を聞いたり、一緒に散歩する等対応した。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分自身が「してほしくないケア」になっていないか、利用者様に対して不適切な声かけをしていないか、グレーゾーン等の確認の場を設け虐待が見逃されない様に注意し、防止している	身体拘束と合わせ虐待について話し合っている。「ダメ」「やめて」などのスピーチロックや行動制限に繋がるような言葉は、使用しないこと等、日々のケアを振り返り話し合い、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度が必要な利用者様が活用できるように支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は契約書、重要事項説明書などを用いて家族様と一緒に確認し説明をしながら不安な点や疑問点などを伺いそれにお答えしながら理解・納得を頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様がお支払いなどで来設の際は、必ず近況報告を行い、その場で意見や要望を伺っており、家族様の希望に添えるよう調整しながら運営に反映している	認知症状が進んできた入居者に、計算問題や漢字ドリルを持ってきた家族に対応した。毎月送付される写真を見て、笑顔が見られて安心と喜ばれている。誕生日等に生花や甘い食べ物を持ってくる方もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より職員とのコミュニケーションを大事にしており声がけを行い意見、提案の言いやすい環境作りをしている。また、それでも声に出来ない意見、要望などは職員が匿名で自由に投函できる投書箱を準備しており会議等で話し合っている	夜間ポータブルトイレ使用時に、暗く見えにくい豆電球から明るいスタンド型に変更した。食器を入居者が使いやすいように並び替えた。資格取得の支援や希望休等働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、意見や相談を聞き入れ出来る限り働きやすい環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や、実力を把握し、内部研修を割り当て職員が講師を行っている。人に教えるということは、自分がまずしっかりと勉強しなければいけないと考えている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回グループホーム協会の研修に参加予定であったが、利用者様の急な通院で参加できなかった。しかし外部研修、集団指導などに参加しており他施設さんとの交流、情報交換は行っている	同法人の施設と、新型コロナウイルス感染症発生時における「業務継続計画」を一緒に作成している。市の集団指導の時に、入居状況や感染状況など情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全体で新規利用者様の状態を把握し、本人の希望や要望を取り入れて安心して穏やかな生活が確保出来るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や入居説明の際にホームでの生活をする上で困っている事や不安な点、要望などを確認し家族様が納得されるまで話し合い信頼関係が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集のチェック欄を把握し、本人様がまず、その時に必要としている支援を見極めサービスに取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は昼食やティータイムなども共にし利用者様の輪に入り日々の談笑などを通し信頼関係を築きながら、お互いの関係作りを行っている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のふとした仕草や、少しの変化も見逃さず、お手紙やお支払い時に来設された際、家族様に報告し近況の状態を把握していただき家族の絆を深めて頂いている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて面会制限を行っているが本人様が馴染みの場所に行きたいという要望に対し家族様と相談し感染対策の元、家族様の協力を得てその場所に行けるように支援した	孫が成人式の着物姿で来訪し、一緒に写真を撮り喜んでいる。家族と馴染みの床屋に行く方や、お布施を持ってお寺参りをして来る方もいる。居室で仲良し同士、お茶を飲んだりお喋りを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の食事の席の配置に気を配り利用者様同士より良い関係で関わり合いが持てる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者様、ご家族様との関係が途切れない様にし相談等を受けた場合はアドバイス等を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日々の会話を大切に、その時に生まれる暮らしの希望や要望を汲み取りながら、本人の意向や思いを引き出せるような声かけを行っている	捕鯨船に乗り鯨を捕獲した事や漁船に乗り外国の港に入港し、楽しく遊んだ事など昔話を聞いている。新聞の広告を見て「お寿司を食べたい」「高校野球や中国ドラマを見たい」等思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の段階から、ご本人様や、家族様からの情報収集を念入りに行い入所後には利用者様の会話から情報を活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の一日の生活スタイルを重視し、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行うカンファレンスにて意見を出し合い主治医や、ご家族様からの意見を統括し介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、主治医の意見を基に職員で話し合い、ケアマネが作成している。物を食べられなくなった方には、医師や家族と相談し、在宅訪問診療に変更した。毎月モニタリングし3ヵ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をケース記録に記載するほか、すぐに状況が確認できる様に生活記録表も作成し業務前には必ず確認している。また朝の申し送りでも情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調面で不安がある時は定期受診のほか、専門医での受診等も出来る様に徹底している。生活面でも、その時々生まれるニーズに対しても柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の情報を得る事が困難になってきている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の要望に添い、利用者様それぞれの、かかりつけ医の通院介助を行い担当医へ現状を報告し指示を頂いている	入居前からのかかりつけ医の継続受診の方が多い。通院は、血圧手帳を持参し、職員又は家族が付き添い受診し、結果は受診記録簿に記載している。緊急時は、管理者に連絡し、救急車で搬送になる事が多い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置が無い場合、体調面などで状況の変化が現れた際は、かかりつけ医を受診し担当医へ状況を報告し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族様と定期的に連絡を取り状況の把握に努め、利用者様が安心して戻ってこれる環境作りに配慮している。また、退院の際は事前に、ご家族様や医療機関の看護師に留意点などの確認を行い調整を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「ターミナルケア(看取り)」については文書化しており入居段階に説明している。またご本人、ご家族様が、どの様な終末期を望んでいるか段階を踏んで話し合い希望に添える様支援している	入居時「ターミナルケア(看取り)」についてホームで出来ること出来ないことを話し、家族の同意を得ている。重度化し食事が摂れなくなった時に、主治医や家族と相談し、病院に搬送することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成し社内研修を行い、応急対応等の知識と、技術の向上を身に付けている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練、通報訓練を行っており、全職員が利用者様の避難誘導の方法を訓練しているまた、災害時の対応についても内部研修をおこなっている	年3回(夜間想定を含む)区長に声掛けし、避難訓練を実施している。消防署員より、車のカギの準備や夜間帯の寒い時に、防寒具の持ち出しの訓練が必要等の講評があった。食料品など3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は完全個室性であり利用者様お一人おひとりのプライバシーが守られている。また、利用者様の尊厳や個性を重視し個々に合わせた支援を心がけて対応している	名前は、「～さん」付けで呼び掛けている。接する時は、寄り添い分かりやすく話し、思いを聞いている。失敗時は「トイレに行きましょう」と小声でトイレ誘導している。毎朝鏡を見て、好みのヘアバンドを使用する方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様の小さなサインや変化を見逃さず希望等を最大限に受け入れながら自己決定して頂ける様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での一日のスケジュールは有るが、基本、利用者様一人ひとりを中心に生活を優先して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい髪型や着替えなどを楽しみながら、お一人おひとりの好みで自己決定して頂いている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会などの行事では利用者様に何が食べたいか直接確認をしたり、食事のメニューなどを工夫したりと食事が楽しみなものになる様に配慮している。また下膳等の片付けなども個々のちからに合わせて職員と一緒にやっている	家族や近所の方の差し入れの野菜等を取り入れ、職員が調理している。刺身など生物や甘い物を好む方が多い。誕生日には、希望でお寿司の出前を取り食べた。献立は栄養士に見てもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の食事の状態を考慮し支援を行っている。食事、水分がとれない利用者様に対しては医師に相談し必要に応じて栄養補助食品等の処方してもらい対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔内の状態や本人の力に応じた口腔ケアの対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に利用者様の小さなサインを見逃さない様にし、その都度声がけ、トイレ誘導を行い自力で排泄できる環境を作っている。また、排泄パターンを把握する為に排泄チェック表を活用している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや落ち着きがなくなる等のサインを把握し、トイレでの排泄支援をしている。夜間は、声掛けやオムツ交換、ポータブルトイレ等個別に対応し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量、便の状態を、排便の有無などを細かく記入し、本人の状況を総合的に判断し排便コントロールが出来るように支援を行っている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の気分の優れない日や、向かない時には、意向を聞いたり、声かけの時間帯を工夫するなど個々の希望やタイミングに合わせて安全にゆったりと入浴を楽しんで頂いている。また時間帯の制限はしていない	一番風呂や温め等本人の希望で、週2～3回の入浴である。職員と昔話をしたり、民謡を歌うなど寛いで入浴している。湯上りに好みのスポーツ飲料や麦茶を飲んでいる。重度の方は、2人体制で安全にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルを尊重し、好きな時間に自由に休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりに処方箋ファイルを準備しており、いつでも確認できる様にしている。また、服薬支援に関しては利用者様の状態に合わせた服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者様個々に合わせた役割をお願いし、職員は感謝の気持ちを伝える事により張り合いや喜びを感じて頂き、また、次に繋がるように支援している		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて思うように外出支援が出来ていないが、個々の通院の際には少し遠回りして普段見れない場所を見て頂いたりしている。また、暖かい日にはホームの外に出て、お花を見に行ったりしており出来る限り支援を行っている	ホームの周辺を車椅子の方も一緒に散歩している。烏浜神社への初詣や牧山、万石浦中学校の桜見物に出掛けている。通院の帰り職員と、思い出の海岸風景をドライブしている。娘の家に行き夕食を食べて来る方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍にて外出は控えているが、通院時など売店にて好きなものを選んでいただき、個々の力に応じて支払いも行って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に添い、ご家族様に電話したい時には出来るように支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の大半を過ごすホールには吹き抜けとなっており天窗が有る為自然光が入る。冬でも明るく暖かく過ごせるため居心地の良い空間になっている。また季節ごとの飾りや行事の思い出などの写真を飾り心地よい空間の工夫をしている	手摺りやテーブル、床などを消毒し、外気を取り込み換気をしている。五月人形を飾ったり、雛祭りや誕生会などのスナップ写真を飾っている。テレビを見たり、カラオケや卓上ボーリングをしたり、ソファで昼寝をする等過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のプライバシーに配慮し、お独りの時間も大切にしながら気の合う利用者様同士が交流を図れるように配慮している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には利用者様が愛用された物などを持って来て頂き安心して穏やかに生活できる様に工夫をしている	テレビや布団、テーブル、動物の縫いぐるみなど持ち込んでいる。バラの造花や家族の写真を飾っている。新聞を読んだり、計算問題を解いたり、布団を畳んだり、タンスの整理整頓をしたり過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の状態の把握に努め安全に配慮しながら、一人ひとりの力を生かし自立した生活が送れるように工夫している		